

# 第1学年国語科学習指導案

日 時 平成20年11月21日(金) 4校時  
児 童 1年3組 男16名 女16名 計32名  
指導者 中 村 さやか  
すこやかサポート 後 一 子

## 1 単元名 本とともだちになろう

教材名 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(ハンス＝ウイルヘルム)(光村図書 1年下)

## 2 単元について

### (1) 指導事項について

国語科第1学年及び第2学年の「C読むこと」の指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」ことである。本単元を通して育てたい主となる能力は、「C読むこと」の内容「ア易しい読み物に興味をもち、読むこと。」「ウ場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」である。

### (2) 教材について

本単元「本とともだちになろう」は、想像を広げながら読むことを通して物語を楽しむ経験をすることで、読書への親しみを深め、日常の読書へとつなげていくことをねらいとしている。

教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、ぼくと犬のエルフの姿を通して、命あるものを精一杯愛することの素晴らしさに気づかせてくれる作品である。この作品では、一緒に大きくなっていくぼくとエルフの姿に親しみを感じたり、エルフの死という出来事に深く心をゆさぶられたりしながら、物語を読むことの楽しさに触れることができる。また、「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」という言葉は、ぼくのエルフへの愛情を象徴する言葉として、物語を読んでいくうえで大きな役割を果たすとともに、児童が気に入る、ずっと心に残ると考えられる。

### (3) 児童について

#### ①学習意欲について

国語の学習に対する意欲には、入学当初から個人差が見られたので、スピーチや言葉遊び、身体表現などを取り入れ、学習意欲を高めようとしてきた。読書については、毎日の読み聞かせを楽しみにしており、自分でも本を読むことを好きな児童が多い。

#### ②読むことについて

「くじらぐも」では、大事な文を視写したり、動作化や音読の仕方を工夫したりする活動を取り入れ、場面の様子について、叙述をもとに想像を広げながら読む力を育もうとしてきた。さらに、友だちの発言を聴く力を育てるように取り組んでいる。

#### ③読む活動について

音読は、内容の大体を把握するために、一斉読や指名読みを中心に、一人一人が声を出すように指導してきた。

#### ③書く活動について

「くじらぐも」では、場面の様子について想像を広げるために、視写を取り入れてきている。

### (4) 指導について

#### ①学習意欲について

身体表現を取り入れることによって、意欲を高めるとともに、場面の様子を想像する楽しさを感じさせたい。また、教材文の最後に「すきな場面」を発表し合う活動を取り入れることによって、教材文を読むことと本の紹介をする活動をつなげ、読書への興味を広げていきたい。

#### ②読むことについて

挿絵と文を結びつけて読むことや大事な文を視写することなどを通して、登場人物の行動を正しく把握させ、場面の様子について、内容を理解した上で想像を広げていけるようにしたい。また、

「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」の言葉を大事に扱うこと、ぼくの行動とエルフへの思いを考えさせることによって、ぼくのエルフへの愛情を十分に読み取らせたい。

③読む活動について

表現読み（言葉・動作）を取り入れ、教師が言葉を補う支援をすることによって、場面の様子を実感できるようにしたい。

④書くことについて

ぼくの行動や気持ちを想像させるために視写をすること、読み取ったことを振り返るためにお手紙を書くことを取り入れたい。

3 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

・場面の様子を想像しながら、進んで物語を読もうとしているとともに、その他の本にも興味を持って読もうとしている。

(2) 読む能力

・場面の様子について想像を広げ、自分の考えをもちながら読むことができる。(読ア・ウ)

(3) 書く能力

・友だちに知らせたいことを、文や絵で表現することができる。(書ア)

(4) 言語についての知識・理解・技能

・文の中における主語と述語との関係に注意することができる。(言エ【ア】)

4 指導計画及び評価規準（「読むこと」6時間 「書くこと」2時間 「話すこと・聞くこと」1時間 計9時間）

次	時	学習内容	評価規準
一	1	・学習の見通しをもつ。 ・読み聞かせを聞く。 ・新出漢字の学習をする。	【関】物語に興味をもって、楽しみながら読み聞かせを聞くことができる。
	2	・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、粗筋をとらえる。	【読】挿絵や時間を表す言葉をもとに、順序を考えながら読むことができる。(イ)
二	3	・ぼくとエルフと一緒に大きくなっていく場面を読み取る。	【読】「エルフはぼくの犬」と話すぼくの気持ちを読み取ることができる。(ウ)
	4 本時	・老いていくエルフと、心配するぼくの場面を読み取る。	【読】老いていくエルフに、「ずうっと、大すきだよ。」と言ってあげるぼくの気持ちを読み取るができる。(ウ)
	5	・エルフの死と、その後のぼくの場面を読み取る。	【読】「ずうっと、ずっと、大好きだよ。」に込められたぼくの気持ちを読み取るができる。(ウ)
	6	・「すきな場面」と、そのわけを紹介し合う。	【関】友だちの考えに興味をもって聞くことができる。 【読】物語について、自分なりの感想をもつことができる。(ア)
三	7	・友だちに紹介したい本について、カードに紹介をかく。	【関】紹介したい本を選び、進んで自分の考えをまとめようとしている。
	8	・カードを完成させ、発表の練習をする。	【書】知らせたいことを、カードに表現することができる。(ア)
	9	・発表会をする。	【関】友だちの発表に興味をもち、読んでみたい本を考えている。

5 本時の指導

(1) 目標

読む能力（ウ）

老いていくエルフに、「ずうっと、大すきだよ。」と言ってあげるぼくの気持ちを読み取ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教師の支援 (○主発問)
見通す 10分	1 前時の学習を想起する。  2 「いつしか、ときがたっていき」から時間の経過を捉え、そこからエルフが年をとったことを確認する。  3 本時の学習課題を確認する。 としをとったエルフに、ぼくがしてあげたことをかんがえよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿絵と壁面掲示から、「エルフはぼくの犬」だったことを思い出させる。</li> <li>文と挿絵を結びつけながら、エルフの変化をとらえさせる。</li> </ul>
深める 25分	4 学習場面を音読する。 (P 2 9 L 4 ~ P 3 1 L 3)  5 「ぼくは、ともしんぱいした。」から、ぼくが心配した理由を考える。  6 ぼくがエルフにしてあげたことを話し合う。  7 「ずうっと、大すきだよ。」と、ぼくがエルフに言ってやった言葉からぼくの気持ちを考える。	<b>【読む活動】</b> 学習場面の内容の大体を把握させるために、どんなことをしてあげたのか考えながら音読させる。  ○ぼくは、エルフの何が心配だったのですか。  ○とても心配したぼくは、エルフにどんなことをしてあげたのですか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>文に書かれているぼくの行動と、挿絵から分かるぼくの行動、想像できるぼくの行動を、位置づけながら確認していく。</li> <li>動作やセリフもつけながら発表させ、様子を読み取らせる。</li> </ul> <b>【書く活動・読む活動】</b> 大事な言葉を確認するために、視写して読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ここで初めて言葉にして伝えていることを確認する。</li> </ul> ○大すきな気持ちに、「ずうっと」がつくとどんな違いがありますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今だけではなく、続いていく愛情に気づかせる。</li> </ul> ○「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」を、ぼくになったつもりで読んでみましょう。  <b>【読む活動】</b> 読み取ったことを確認するために、読ませる。
まとめる 10分	8 学習のまとめと振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エルフへ語りかけるぼくの言葉をお手紙に書く。</li> <li>書いたことを発表する。</li> </ul> 9 次時の学習内容を確認する。	<b>【書く活動】</b> 本時の学習を振り返りながら、自分の考えを書かせる。

(3) 具体の評価規準

観 点	十分に満足できる	満足できる	努力を要する児童への手立て
読む能力	老いていくエルフを心配する気持ちと合わせて、これからもずっと好きだというぼくの気持ちを書いている。	エルフのことを心配するぼくの気持ちか、これからもずっと好きだというぼくの気持ちのどちらかを書いている。	挿絵や「ずうっと」という言葉に着目させて、ぼくの気持ちを考えさせる。